

山陽小野田市健康づくり推進協議会議事録			
会議の種類	令和８年度第１回山陽小野田市健康づくり推進協議会		
日 時	令和８年７月１４日（火） １８：３０～２０：００		
場 所	山陽小野田市役所大会議室		
出席者 (１７人)	全国健康保険協会山口支部 山陽小野田市連合女性会 山陽小野田市立山口東京理科大学 山陽小野田市健康増進計画推進委員会 山陽小野田市社会福祉協議会 山陽小野田市母子保健推進協議会 一 般 公 募 山 口 県 栄 養 士 会 山口大学大学院医学系研究科 山陽小野田市民生児童委員協議会 山陽小野田市食生活改善推進協議会 山陽小野田市自治会連合会 山 陽 小 野 田 医 師 会 山陽小野田市立小学校校長会 山 陽 小 野 田 薬 剤 師 会 山 口 県 理 学 療 法 士 会 山口県看護協会小野田支部	尼 田 剛（委員） 井 上 幸 子（委員） 恵 谷 誠 司（委員） 小 柳 朋 治（委員） 瀬 口 美 砂（委員） 高 木 理 代（副会長） 土 井 さ つ き（委員） 中 野 恭 子（委員） 長 谷 亮 佑（委員） 林 令 子（委員） 半 矢 幸 子（委員） 平 中 政 明（委員） 廣 田 勝 弘（会長） 間 恵 満 貴（委員） 松 垣 裕 明（委員） 三 戸 洋（委員） 渡 壁 美 香（委員）	
欠席者 (３名)	山口県精神保健福祉士協会 山陽小野田歯科医師会 一 般 公 募	植 木 亨（委員） 嶋 田 修 士（委員） 中 川 正 治（委員）	
オブザーバー	山口県宇部健康福祉センター	大 井 真 由 美	
事務局	福祉部長 石田 恵子 健康増進課課長補佐 室 本 佑 健康管理係長 山 下 弘 主査兼健康増進係長 古 谷 直 美	健康増進課長 大海 弘 美 子育て支援課兼健康増進課参事 尾 山 貴 子 食育推進係長 加 藤 諭 香 江 健康増進係主任 片 岡 雅 美	
	１ 山陽小野田市福祉部長挨拶 ２ 委員・職員紹介		

		3 議事 (1) 令和8年度健康増進課事業計画について (事務局から説明)
会	長	いろいろ変更もあるが、救急医療は影響も大きい内容かと思う。ただ、現状を考えると、やむを得ない部分もあるかとも感じている。質問や意見あるか。
委	員	小児救急について、以前も小野田にあった急患診療所が医師の高齢化で宇部に統合された。今回も、宇部地区と小野田地区の小児科医の高齢化で縮小されているのではないかと思うが、行政として、両市の小児科の拡充に向けた具体的な取組はしているのか。
事 務 局		医師確保についてだが、市として単独で取り組むのは大変厳しく、難しい状況である。今後は、県や山口大学と協議しながら、小児科医の確保を目指していく。現時点では難しい状況にあり、やむを得ず縮小という形を取っている。
会	長	働き方の問題もある。医師の時間外勤務も非常に大きな問題で、医師会としても悩みながら議論しているところである。現時点では、見直せるところは開設日及び診療時間ではないかと考えている。今後は、宇部市や医師会とも協議しながら、拡充できるようにしていきたい。
委	員	この問題は、2年前に急患診療所がなくなるときにもあったと思う。この話を聞いて、お母さん方も不安に思っておられるし、大変苦労されているんじゃないかと思う。診療のことや働き方改革のこともあって、共働きだと受診する時間を取るのもなかなか難しく、いろいろ制約もある。そう考えると、山陽小野田市民は大変だなと思うし、私もとても不安に感じている。皆さんはどう思うか、聞かせてほしい。
会	長	救急体制についてあるか。 (挙手なし)
委	員	資料1の1ページ、「健康増進事業」の中に「健康手帳の交付」とある。自分は健康手帳をいつもらったのか、あるいはもらったことがあったのかも思い出せないくらいである。山陽小野田市では、健康手帳はどのくらい行き渡っているのか。今はあまり必要とされていないのか。お薬手帳は病院に行くを使うが、健康を維持するためには健康手帳も必要ではないかと思う。皆さんはどう考えるか。行政の考えも聞きたい。
事 務 局		健康手帳は、40歳以上で希望する人に配布することになっている。今はデジタル化が進んでいて、厚生労働省からもダウンロードして使うよう示されている。ただ、デジタルがあまり得意でない人もいるので、紙の健康手帳も希望があれば交付している。以前のように積極的に紙の手帳を配る形ではなくなっているが、希望される場合、申し出てもらえれ

		ば対応している。
会	長	私もずっと診療しているが、健康手帳を持っている方は一度も見たことがない。今後どう活用していくのか、見直すにはちょうどよい時期ではないかと思う。この点は、今後しっかり検討してもらえればと思う。
委	員	山陽小野田市はスマイルエイジングを進めているので、「元気で長生き」を考える中で、機械化が進むと高齢者にとっては生きづらくなる面もあると思う。だからこそ、市民の立場に立ったきめ細かな配慮や支援をお願いしたい。
会	長	事務局には今の意見を踏まえた対応をお願いしたい。他にあるか。
委	員	宇部市休日・夜間救急診療所の小児科診療体制について、月・水・金は廃止で、火曜日は 20 時間から 2 時間、木曜日にも時間が変わるということか。日曜・祝日はあまり変わらないように見える。利用者が少ないということなのか。少ないこと自体が悪いということではないが、利用者が少ないという理解でよいのか。 それと、利用者数がどのくらいなのか、年度でも月でもよいので教えてほしい。
事 務 局		利用者については、1 日当たり大体平均 5、6 人である。
委	員	この 5、6 人を多いと考えるのか、あるいはゼロの日があるのか、そのあたりも含めて考えないといけない問題だと思う。他にバックアップがあるのかどうかも含めて、考える必要があると思う。
会	長	医師会としても問題としているので、議論していく。 その他にあるか。健康診断についてまとめた冊子も作っているが、ご覧になって扱いやすいとか、感想はいかがか。
委	員	「実施医療機関」に載ってないところでも、今実際にやられている機関があるのか。
事 務 局		個別健診は「実施医療機関一覧」、集団健診は「日程表」のとおりである。
委	員	私は内科のかかりつけ医がない。予防接種の時は循環器科に行っているが、それ以外は受診していない。リウマチで整形外科には通っているが健診受託医療機関ではない。今年は個人病院で受けた。今年 75 歳になって後期高齢者になったが、75 歳になるまでは個人病院で受けると無料だった。75 歳を過ぎると 500 円かかるという情報を全く知らなかった。皆さんはご存知か。
事 務 局		けんしんガイドに料金一覧がある。山陽小野田市は保険の種類によって

委 員 事 務 局 会 長	料金が違うので、がん検診、特定健診について一覧にしている。 もう一つ、遺伝子検査を行っている病院や機関がある。このけんしんガイドには、遺伝子検査を行っているところは載っているか。もし可能であれば記載していただきたい。
事 務 局 会 長	市として把握はしていない。相談があれば、個別に対応させていただく。 遺伝子検査もさまざまなものがあるが、がん検診で行われている検査項目は、集団を対象とした研究で、この検査を行うことで死亡率の低下や寿命の延伸につながるものが確立された項目が採用されている。一方、遺伝子検査は必要に応じて行うもので、病気の種類やタイプに応じて実施される検査であるため、医療機関で相談いただきたい。また、かかりつけ医がいないとのことで、日頃からいろいろなことを相談できるかかりつけ医を持っていたくと相談しやすくなると思う。
委 員 事 務 局	個別実施医療機関一覧で胃の欄の二重丸と一重丸はどう違うのか。 バリウム検査をしているところが二重丸となっている。
会 長	（２） 令和８年度山陽小野田市自殺対策計画について （事務局から説明） 今回、新たに「こころの健康相談会」を開催する。これまでにない取組として、相談窓口で直接相談できる場を設け、当事者だけでなく、当事者に関わっている方からの相談も受けることとしている。大きな取組になるが、この取組をどのように周知していくか、その方法について、本日欠席で伺えない委員もいるが皆さんの意見を伺いたい。
事 務 局	欠席の委員から事前に意見を伺っている。こころの健康相談会については、迷っている方が利用しやすいのではないかと、窓口が健康増進課であり、精神的な相談窓口ではなく健康全般を扱う課が窓口になっていることで、相談のハードルが低くなるのではないかとのことであった。また、「相談したらいいのに」と思う方がいても、なかなか相談につながらないことも多いため、周知をしっかりと行うことが大切ではないかという意見であった。さらに、女性が相談する際には男性医師が担当となることも多いため、同性への相談を希望する場合に、まず保健師が相談を受けて同席するなどの対応ができるこの健康相談会は意義があるのではないかとのことだった。周知については、地域生活支援センターのある社会福祉協議会にも、しっかりと周知するべきではないかという意見をいただいた。
会 長	自殺の背景として、この調査では健康問題が最も多く、次いで家計・経済・生活問題が挙がっている。健康問題については、若年から中年ではうつ病などの精神疾患が背景となることが多く、高齢者では自身の病気

		などが影響することが多いなど、年代によって特徴がある。また、経済・生活問題は、働き盛りの世代に多い傾向がある。このような背景を踏まえ、こころの健康相談会をどのように周知していくかが重要だと思う。社会福祉協議会から、周知に協力できそうなことや、相談支援を行う中で感じている課題などがあれば、お聞かせいただきたい。
委 員		社会福祉協議会では、コロナ禍以降、特例貸付の対応を通じて、経済的に困っている方から多くの相談を受けてきた。コロナ禍以降も継続して相談を受けている方がおられ、さまざまな課題を抱えている方も多いと感じている。その中には、こころの健康に課題を抱えている方もおられるため、こうした方々に対しては連携しながら周知していければと思う。相談に来られた方へ「こういった相談会がありますよ」と声かけをしたり、チラシを掲示したりするなど、周知に協力していきたい。
会 長		地域の中で、高齢者も病気をきっかけにということもあるがどうか。
委 員		高齢の方とお話する機会があり、半年前までは普通に生活されていた印象だったが、今回は歩行補助車を押して外出されていて、お声がけした。その中で、「ばあちゃんに『早く迎えに来て』と言っているんよ」と話された。愚痴のようにも聞こえるが、そうした言葉の背景には不安があるのではないかと感じた。私は励ますというより、「そうですね」「大変ですね」と話を聞き、寄り添うような対応を心がけている。訪問の際に、このようなお話を伺うことはよくある。高齢になると、健康や経済面など、さまざまな不安を抱えながら生活されている方が多いと思う。だからこそ、話を聞いてくれる人がいることや、寄り添ってくれる存在が大切なのではないかと感じている。自殺に至るまでには大きな葛藤があると思う。その方の心の叫びを少しでも受け止められるような関わりが大切ではないかと思う。
会 長		民生委員は地域の中で心配な方に関わることがあり、対応する中で解決できることもあるが、どうしたらよいか悩む場面もあるとのこと。その時に、この相談会や相談窓口につないでいただけるようになることよい。保健師だけでなく、地域の皆さんにも相談窓口を知っていただくことで、支援につながる機会が増えるのではないかと。 一方で、自殺の問題はタブー視されることもあり、周知の難しさもあるため、地域全体で取り組んでいくことが大切だと感じている。 その他、意見はあるか。
委 員		メンタル面で、昔は朝昼晩関係なく、山口県立こころの医療センターが相談窓口になって相談してたが、現在はどうか。
事 務 局		現在も 24 時間体制の山口県立こころの医療センターのこころの救急電話相談はある。他にも心の健康電話相談やこころの LINE 相談もあるので、こころの医療センターに限らず、本人に応じた相談窓口を紹介しつ

会 長	なぐといった周知をしている。 今はいろいろな相談窓口があり、小さな子どもでも相談しやすくなっている。最近では著名人が亡くなられた際に、相談窓口の案内が流れることも増えたが、見慣れてしまっている面もあるかもしれない。地域でも、身近な形で相談窓口を周知できるとよいと思う。 その他、意見はあるか。
委 員	大学生でもさまざまな問題を抱えている人がいるが、相談に行けない人も少なくない。そうした方をどう支援につなげるかが課題だと思う。また、このチラシには「ご家族からの相談をお受けします」とあるが、全体としては本人向けの内容になっているため、本人向けと家族向けで内容を分けたチラシを作ることで、「何か様子がおかしい」と感じたご家族からの相談にもつながりやすくなるのではないか。
事 務 局	ご指摘をいただいた件については検討させていただきたい。
会 長	(3) その他 スマイルエイジング薬局について (事務局説明)
委 員	委員から一言いかがか。
委 員	令和8年度からのプロジェクトでは、大学や薬剤師会と連携して取り組む予定である。転倒・骨折・フレイルを予防し、できるだけ動けなくなること防ぐため、市内薬局、特にスマイルエイジング薬局と協力して進めていきたいと考えている。また、山陽小野田市が抱えるさまざまな課題についても大学と連携できるので、ぜひ課題を投げかけていただきたい。研究費を活用しながら、啓発資材の作成などにも取り組めるだろう。薬剤師会と市と協力して進めていきたい。
委 員	薬剤師会としても、山陽小野田市の健康課題に対して、薬局がどのように関わっていけるかという視点で取り組んでいる。2022年からスマイルエイジング薬局の活動を始め、今後10年先を見据えたときに、薬局として健康課題の解決につながる活動を行いたいと考え、今年度は骨折予防をテーマに取り組んでいる。本日も保険年金課からの委託で通いの場に伺い、骨折予防についてお話した。血圧の薬による血圧の下がりすぎを防ぐためには家庭での血圧測定が大切であることや、市販の風邪薬や花粉症の薬による眠気やふらつきが転倒につながる可能性があることなどをお伝えした。今年度は10か所程度の通いの場で活動する予定で、こうした取組を少しずつ広げていきたいと考えている。また、スマイルエイジング薬局での活動に加え、理科大の学生にも骨折予防をテーマとしたポスター作成を依頼しており、大学と薬剤師会が連携して取組を進めてる。この流れをさらに発展させるため、山口東京理科大学の教授の先生方にもご協力いただき、研究の視点も取り入れながら取組を進

	めたい。また、医療費の削減や介護が必要となる方を少しでも減らすことにつながるよう、どのような活動が効果的なのかについて助言をいただきながら、今後の活動につなげていきたい。
会 長	実際に健康支援をされ、研究も含めて、これから大きく進められるところだと期待している。
オブザーバー	皆さんの活発なご意見を伺った。先ほどのこころの健康相談会についてだが、当センターでも職域への情報発信を行っている。当センターでは、宇部健康福祉センター管内地域・職域連携推進協議会を通じて、2か月に1回、関係機関へメールで情報発信をしている。今後は、そうした機会も活用しながら、こころの健康相談会の周知などにも連携して取り組んでいければと思う。 4 その他 医療サマリーシート (廣田先生から説明) 本日お配りした「救急サマリーシート」は、お薬手帳のポケットに入るサイズで、救急時に必要な情報を確認できるよう作成したものである。救急搬送時は、本人や家族が十分に説明できないこともあるため、持病やアレルギーなどの必要事項を記入し、お薬手帳に挟んでおくことで、円滑な対応につながる。記入が難しい場合は、かかりつけ医に確認しながら作成していただきたい。今後、医療機関などを通じて市民の皆さまへ配布する予定なので、このシートの存在を知っていただきたい。 質問等は特になし (閉会)